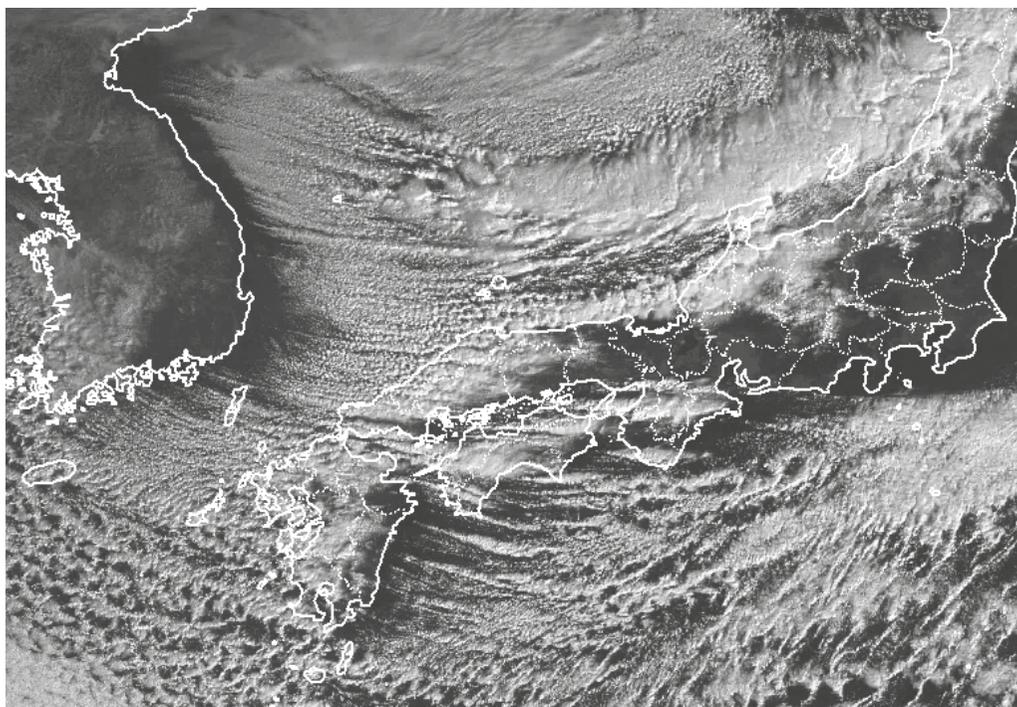


今月のひまわり画像—2022年12月

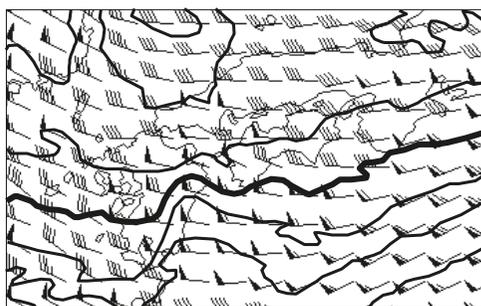
高知市に記録的な大雪をもたらした寒気



第1図 2022年12月23日09時（日本時間）の日本付近における可視画像。

2022年12月23日の明け方から朝にかけて、高知市では短時間で集中的に降雪があり、記録的な大雪となった。第1図は同日09時（日本時間）の可視画像で、日本海西部の筋状雲は離岸距離が短く、強い寒気が流入していることを示している。当時の気圧配置は、日本海中部に寒冷渦に対応した中心気圧978hPaの低気圧、華中に中心気圧1028hPaの高気圧があって、西日本付近では気圧の傾きが急になっていた。第2図に23日09時の西日本付近における LFM（初期値：同時刻）による700hPa面の風と温度の分布を示す。四国付近には700hPa面で -18°C 以下の強い寒気が流入していることがわかる。関門海峡から四国方面へ吹き抜ける強い西寄りの風が海面水温 20°C 前後と高い瀬戸内海で雪雲を発達させ、高知市では08時に積雪が14cmとなり、1912年の統計開始以降の極値を更新した。

この記録的な大雪の影響により、高知県内では約



第2図 23日09時の西日本付近における LFM（初期値：同時刻）による700hPa面の風（長い矢羽根が10kt（1 kt \approx 0.51m/s））、温度（ 3°C 毎）の分布図。太実線は -18°C を示す。

1700戸が停電となった。また、土佐市-須崎市間の国道では約100台の車が一時立ち往生するなど、社会生活に大きな影響が出た。

（気象庁大気海洋部予報課 小松恭子）